デジタルアース時代のマップサービスのグローバル化とローカル化

Globalization and Localization of Map Services in Digital Earth Age

厳 網林 [1]
Wanglin Yan[1]

[1] 慶應大・SFC
[1] SFC, Keio Uni.

http://ecogis.sfc.keio.ac.jp

近年、地理空間情報が空前の注目を集めている．新聞や雑誌に地図，位置，マッピング，GIS，GPS に関する記事が連日登場している．このブームの背景には 2005 年 6 月にサービスを始めた Google Maps/Earth の存在が大きい．Google Maps/Earth に続いて、NASA から World Wind，Microsoft から Virtual Earth（後に Live Local と名称変更），Yahoo からは Yahoo! Maps Web Service など、デジタルアース関連製品とサービスが続々発表されており，いまや Web マッピングはインターネットの寵児となっている．

これら新型の Web マップサービスは

１）地理情報処理の難関をクリアした

２）地理情報を特殊な業界から脱皮させた

３）アプリケーションの開発を容易にした

ため、これまでの WebGIS を超える技術力、普及力を見せ、地理情報業界を空前の活性化をもたらした。これによって、世界はフラット化（グローバル化）される一方、それぞれの地域や業界が生き抜くために一層の個性化（ローカル化）が求められるのも事実である。面白いことにデジタルアース技術は、グローバル化とローカル化のどちらにも優れたポテンシャルを持っており、それぞれにチャンスを提供している。そのチャンスを生かすために、これまでの地理情報システムや地理情報サービスの概念を再構築しなければならない。

１）データモデル

Web マップサービスでは地図や画像は世界のどこまでも続き，レイヤもユーザが好きなだけに追加できる．ユーザにとって意味のあるのはレイヤではなく，一つのポイントや一本の道路であり，あるいはそれに関する１つの属性である．

２）更新方法

Web マップサービスはこれまでのように５年に１度や１０年に一度の更新ではなく常に新しい地図を提供する．見上げれた高頻度，高解像度，高周波帯の衛星が実用化になり，ローカルのことを衛星が常に見張っている．

見下ろせばトラックバックやロングテールによって地理情報の利用が爆発に増える．LBS によって，ネット世界のどこかにあるローカルの情報，マルチメディアの情報は自動的に集めることができれば地図情報の更新になる．権威のない測量，地図の時代が訪れる．

３）政府と民間の役割

新規地理データの整備とサービスは政府主導ではなく，民間主導の時代が訪れる．OGC，GML，GeoRSS，XML の例で見られるようにいずれも民間主導で進められた．そこに政府の役割はデータではなく，データの使い方に戦略的重点をおくべきだろう．

４）GIS ソフトウェア

大手ベンダーが受難する時代が訪れるかもしれない．オープンソースソフトウェアが成熟し，高価なソフトウェアが必要なくなる．

Web2.0 で飛躍的な発展を遂げたマップサービスと，それによって注目された GIS．GIS は情報社会の表舞台に立った．しかし，これはほんの序の口に過ぎない．Google や Yahoo や Microsoft のマップサービスもデジタルアースの最終形でもない． NASA から World Wind というツールも提供されているように我々は地球に対してまだまだ知らないことが多すぎる．

Google Earth にしろ，World Wind にしろ，ツールに過ぎない．世界が求めているのは，Real Earth に何が起こっているか，そこで暮らしている人々は何をすべきかを提示し，未来社会を先導することである．人類はいま貧困，災害，環境，犯罪，テロ，数々の問題に直面している．そこに求められるのは自由に情報を交換し，相互の理解を深め，協働して問題の解決に向かうことである．

Web マップサービスはエンターテインメントに止まることもなく，地球の姿をより多面的に捉えて理解するためのステージとして，さらに進化させなければならない．そのために，システムとしての GIS，サイエンスとしての GIS，サービスとしての GIS がより本格的に融合させなければならない．